

地域とともに防災意識の向上を図る



6/28
瑞穂小学校

保護者と協力し段ボールベッドを組み立てる児童たち

瑞穂小学校（山舘伸太郎校長）で、「地域DE防災教室」が開催され、児童や保護者、地域住民たちが参加しました。

段ボールベッドの組み立て体験や炊き出し、心肺蘇生（AED）体験や消火器VR体験などを通じて、実際に災害が起きた時に必要な知識などを学びました。

段ボールベッドの組み立てに挑戦した6年生の須藤岳くんは「作るのは難しかったけど必要な知識なので、災害が起きた時には、今回の経験を思い出して対応できるようにしたい」と感想を話しました。

犯罪や非行のない地域社会を目指して

第76回「社会を明るくする運動」市民集会在開催され、犯罪や非行のない安全・安心な地域社会を実現しようと市民ら約300人が会場に集いました。

集会では、車力中学校3年の村上優奈さんと稲垣中学校2年の齊藤遙那さんが宮下隆青森県保護観察所長から一日保護司の委嘱を受け、その後社会を明るくする運動作文の発表をし、地域に目を向け、声を掛け合う大切さを来場者に伝えました。

最後のアトラクションでは、青森県警察音楽隊による吹奏楽演奏やカラーガード隊の演技が披露され、観客を魅了していました。



7/3
松の館

左から齊藤さん、村上さん、宮下隆青森保護観察所長

世界遺産の中で学び楽しむ



7/4
亀ヶ岡石器
時代遺跡

勾玉作り体験で真剣な表情の来場者

世界文化遺産登録5周年を記念し「Jomon Fes.2026」（NPO法人つがる縄文の会主催）が開催されました。

会場では、ステージイベントではつがる縄文荒吐太鼓の力強い演奏やもりた保育園の演舞、縄文文化に魅せられたミュージシャンたちの演奏などが披露され、まつりを盛り上げました。

また、勾玉作りや石の穴あけなどの縄文体験コーナーも設けられ、多くの親子連れでにぎわいました。

勾玉作り体験に参加した親子は「丸く削るところが難しかったけど、つるつるで可愛くできて良かった」と話しました。

市産メロンのおいしさを給食で

7月6日の「つがる市メロンの日」に合わせ、市内の認定こども園や小中学校の給食に、市産のタカミメロンが登場。教職員を含む2,774人が、旬の味覚を堪能しました。

向陽小学校（平川公明校長）の4年生の教室では、給食の前に市職員が、つがる市のメロン収穫量が県内で最も多いことや、「メロンの日」が7月6日である理由をクイズ形式で紹介。児童たちは楽しみながら、地元農産物への理解を深めました。

高橋茉佑さんは「給食にメロンが出てきてうれしい。甘くておいしかった」と笑顔で話し、児童たちは皮のきわまで味わいながら、旬のメロンのおいしさを楽しんでいました。



甘いメロンに笑顔を見せる児童

再生可能エネルギーで地域振興を図る



協定書を手にする倉光市長と幸村展人代表取締役副社長

市と株式会社グリーンパワーインベストメントが「GX（グリーントランスフォーメーション）を起点とした地域振興に関する連携協定」を締結しました。

本協定は、GXを起点とした再生可能エネルギーの活用を推進し、地域経済の循環促進や地域の活性化を図ることを目的としています。

これまで両者が築いてきた信頼関係を基盤に、農業の脱炭素化や地域の魅力向上による企業誘致など、幅広い取り組みを通じて地域社会に貢献していきます。

この日、協定締結式が行われ、倉光市長は「再生可能エネルギーをキーワードとして本市が生まれ変わり、それを契機に未来へつながるまちづくりを進めていきたい」と話しました。

鳥獣被害を減らすために 対策グッズを寄贈

つがるにしきた農業協同組合が、箱わな10基と熊撃退スプレー10本を市に寄贈しました。

この日、贈呈式が行われ、成田春光代表理事組合長は「近年、野生鳥獣による農業被害が深刻化しており、直接的な損失のみならず営農意欲の減退にもつながっています。そうした中で農家の皆さんの力になればと、寄贈しようと思いました」と話しました。

倉光市長は「農家を守ることが最優先事項であり、市民生活の安全や農作物の鳥獣被害を軽減するためにも、今回いただいた箱わなとスプレーは十分に活用させていただきます」とお礼の言葉を述べました。



目録を手にする倉光市長と成田代表理事組合長